

河川に関する防災



前頁の表「遠賀川（飯塚市川島付近）での雨量と河川の水位」を見てもらうと、雨量の増加とともに少し時間をおいて河川の水位も上昇し、雨がやめば水位も徐々に下がってきています。7月24日の15時からを見ると、わずかに数時間で河川の水位は4メートル以上も上昇しているのがわかると思います。

ここで注目する点は、7月26日の正午ごろの河川の上昇具合。雨量は、24日と比べ半分くらいにもかかわらず、河川は3日間で最高の5メートル40センチ近くまで上昇しています。

これは、前日からの降雨で土壌が水分を貯えることができず河川に流れ込み、雨量の割に河川は大幅に増水したためです。

家の近くに川がある方や、釣りや水遊びで川を利用する場合、長雨の

季節や数日間雨が降り続いたあとには、たとえ少量の降雨でも川の水かさには急激に増すことがあります。

河川の防災（生命を守る）の基本は、雨が降った時には河川に近づかないこと。また、家の近くに川がある方は、気象・警報・役場からの避難情報などに特に注意を払うようにしてください。



▲もし川を見に来ている時に崩れたりしたら……

冠水道路の怖さについて



大雨の際、車で冠水した道路に入っただち往生し、「車を引き揚げて欲しい。」という救助連絡がよく入ります。1時間の雨量が20ミリを超えてくると、低地の道路など場所によっては冠水が始まります。

日ごろ通っている道路も、がらりと姿を変え、道と路肩の区別ができなくなります。ましてそれが大雨の降る夜ともなると、視界も悪く大変危険です。車のエンジンは、マフラーが水につきガスを排気出来なければ、あっという間に止まってしまいます。また近年の車は、機密性がよく作られているので、車体が浮いてタイヤが地面から離れれば、どんなに馬力のある車でもどうすることもできません。そうなるのでドアも水圧で開かなくなります。大雨の時などは不要の外出を避けるというのは、一番の防災対策ではないでしょうか。